

その後またタクシーに分乗して、国技館横にある「江戸東京博物館」へ。
 各自見学で、江戸ゾーンでは江戸時代の武士や町の暮らしの展示、落語や鳴り物の実演。
 昭和ゾーンでは、昭和初期の銀座のミニチュアや産業革命、第2次大戦後の東京や、私達の子供の頃
 の民家の再現など、懐かしい展示もありました。
 色々と見学ののち自由解散で、充実した下町研修会は終了となりました。



朝稽古見学中



最年少力士は 17 歳



塩ちゃんこ



和やかに、昼食



中央は、千賀ノ浦親方



駒澤大学教育後援会創立五十周年記念式典並びに

記念講演・記念パーティの報告

11月28日、東京帝国ホテルにて開催されました。教育後援会・役員経験者・教授・一般後援会メンバー等、多数の参加で盛大に開催されました。

〔記念講演会式次第〕

挨拶 一戸隆男50周年事業実行委員会委員長(駒澤会総務部委員)
 記念講演 宇宙飛行士 毛利衛氏「宇宙へ挑戦するエネルギー」
 花束贈呈



広報部副部長
荒井喜久子

宇宙飛行士の毛利衛氏の講演では、宇宙から見た地球の美しさ、神秘さ、生命の偉大さ、宇宙から地球全体を見られる様になったこと、生命のもと(ゲノム)がわかり、時間空間の全てが繋がって今がある事が、科学技術によって見えたこと、それが仏教思想に繋がり、駒澤大学の建学の精神(行学一如・信誠敬愛)にあり、すばらしい先見の大学であるとの言葉がありました。

また、アメリカと日本だけが水素燃料を使用し、高い技術であること、新しい環境で多様化・繁栄・情報ネットワークを広げ、全体を考え、未来に繋げる科学技術を研究し続ける様、事業仕分けについても論議していくとの講演でした。

〔毛利衛氏略歴〕

1948年 北海道余市生まれ
 1976年 理学博士
 1985年 日本人初の宇宙飛行士
 1992年 科学者飛行士
 2000年 NASA 宇宙飛行士
 現在 日本科学未来館館長
 東京工業大学連携教授
 日本学術会議会員

〔記念式典式次第〕

開会の辞 神山 H13 年度会長
 挨拶 千葉宏隆後援会会長
 来賓挨拶 石井学長
 同窓会挨拶 越後会長
 駒澤会挨拶 磯田会長
 50周年事業報告 森屋 H16 年度会長
 感謝状贈呈 一戸実行委員会委員長
 閉会の辞 井上 H14 年度会長



←
一戸50周年
実行委員会
委員長

〔松村公嗣画伯略歴〕

日本美術院評議員同人
 愛知県立芸術大学教授

千葉後援会会長より「駒澤大学教育後援会は、父兄会という名称で創立され、目的は駒澤大学の発展と会員相互の福祉・親睦をモットーに活動を展開、会員数は、1万6千名、約100名の委員で運営されています。昭和34年8月23日創立から、平成21年で50周年を迎えることができ、本日の記念式典を開催することができました。」との挨拶があり、石井学長は、「五十周年記念誌の表紙の揮毫の依頼を受け、緊張しました。教育後援会が常に学生の修学環境の改善に向け支援していることに対し、とても感謝しています。大学は、着実に今後役に立っていきます。」との挨拶をされました。

森屋氏からの50周年記念事業報告では、日本画松村公嗣画伯の描かれた「宵墨牡丹」「宵牡丹」の寄贈(平成18年)、Web履修用ノートパソコン、ベンチ、机等の寄贈(平成21年)をしたことの報告があり、松村画伯に感謝状が一戸氏より渡され、その日本画は、駒澤大学中央講堂に展示されていることの紹介があり、画伯より謝辞がありました。

閉会の辞は、井上氏より駒澤大学発展のため、「教育後援会・同窓会・駒澤会」の三本柱が、一体となり、駒澤大学の益々の伝統と歴史のため応援をしていくとの言葉がありました。

続いて、記念パーティがあり、大谷元総長から「今後とも駒澤大学が益々日本をリードする大学として発展していくように祈っている。」との言葉をいただき、乾杯のあと個々旧交を暖めあい、親睦を深め、駒澤大学を守り支えあおうとの約束をして終了しました。



会員紹介

小沼百合子 KONUMA YURIKO さん

駒澤会会員には各方面で活躍されている方々が沢山いらっしゃいます。今回は広報部で活躍されている小沼百合子さんの活動を紹介します。



質問者：来年のNHKの大河ドラマは「龍馬伝」だそうで、また龍馬ブームが起るだろうと思います。小沼さんは「龍馬 108 女人会」という会を主催されているそうですが、始められたきっかけは何だったのですか。

小沼：司馬遼太郎さんの「龍馬が行く」を読んでから龍馬の生き方に憧れ続けていました。6年前京都で「龍馬慰霊祭」と書かれた提灯行列に出会ったのです。思わず「ご供養に参加させてください」と声を掛け、列に加わりました。これが私と龍馬会との出会いでした。

質問者：提灯行列に出会ったことを、運命的な出会いと感じられたようですね。ところで、108 女人会というのは面白い名前ですね。

小沼：龍馬の会は海外を含めると 140 を越えています。107 番目の会がバリ島に出来た時、仏教徒の私は 108 番目の女性だけの会を立ち上げることにしたのです。現在メンバーは 50 人ほどですが、108 人まで広げたいと願っています。

質問者：108 にこだわってますね。それも煩惱でしょうかね（笑）。ところで、龍馬の会って、どんなことをやってるんですか。

小沼：龍馬の史跡探訪をしたり、イベントやコンサートを開いたりしています。最近では龍馬の会のほか、アクティブ ライフ協会という社団法人を立ち上げました。

質問者：直訳すると「積極的な生活」と言う様な意味になりますけど、何を目的にした協会でしょうか。

小沼：日本人の心を取り戻すというか、日本人力のアップを目的に活動する協会です。

日本人って団結心があってパワーのある民族です。でも日本人力は落ち続けているように思えるんです。その日本人の力、心を取り戻さなきゃいけないと、日本を愛する人達が集まって立ち上げた協会です。

でも、日本人力アップって大変なことで、何か切り口が必要になりますでしょ。それで、日本酒を守る活動から入ることを選びました。

全国の龍馬の会と蔵元をタイアップさせて、日本酒ファンを増やしてゆくことを切り口に、日本文化の見直しと伝承を計り、日本人としての誇りを取り戻そうという考えなんです。

10 月に高知で「全国龍馬ファンの集い」というのが開催されるんですが、会場に高知県の蔵元を集めて利き酒会を開きます。龍馬ファンの方たちに日本酒の文化を知ってもらおうと進めています。

その後、品川プリンスホテルで「龍馬サミット」が開かれるんですが、龍馬に関係のあった 9 都市から市長さんが出席なさいます。ここでも、東京の蔵元と協力して一般の方達を対象に「利き酒会」を開く予定です。それと、利き酒の資格を取るスクールも立ち上げます。

質問者：日本酒が切り口ですか。日本人力アップとは壮大な考えですね。

小沼：いつまでもアクティブに輝き続ける人々を社会に創出する、日本食文化の伝統と歴史を守る・・・同じ思いの人達と、社会のお役に立てるように頑張りたいと思います。

質問者：最近脚光を浴び始めてる「社会企業家」という感じがしますが。

小沼：社会の片隅で、出来ることから始めたのです。

質問者：素晴らしいですね。共感者が沢山増えることを祈ってます。併せて、駒澤会の活動の方も宜しく願います。今日は有難うございました。

禅文化歴史博物館所蔵品紹介

Vol. 2



禅文化歴史博物館 平成 14 年 (2002 年) 開設
東京都選定歴史的建造物「耕雲館」を保存・活用。本学開校 120 周年記念事業の一環。平成 18 年 (2006 年) 博物館相当施設として指定された。
入館無料、開館時間=月~金 10:00~16:30
休館=土・日・祝日・大学の定める休業日 (8 月を除く第 3 土曜日は開館)



一階展示室

天井 ステンドグラス

道元禅師真筆『正法眼蔵嗣書』 (禅文化歴史博物館所蔵)

冊子本、一卷一冊、粘葉装、32 葉、雁皮紙、縦 23.6 cm、横 14.4 cm

< 嗣書の内容 >

禅宗では古来、仏法を継承する「嗣法」の証として、釈尊以来の系譜を書き記した「嗣書」が、師から弟子に授けられました。『嗣書』は、面授嗣法 (師と弟子との仏法的人格的相承) の意義と、嗣書授受の重要さを説く内容です。最初に説示場所として「観音導利興聖宝林寺」とありますが、これは、草案本を著した山城深草の興聖寺を指します。以後、一行当たり十七~十八文字、一頁に六行ずつ配し、五十七頁に渡り計三百三十六行、約五千九百文字が、仮名交じり文で綴られています。

書き出しは、「仏仏かならず仏仏に嗣法し、祖祖かならず祖祖に嗣法する」、すなわち「仏法の継承は、必ず仏から仏へ、祖師から祖師へと伝達相続されるもの」と説き、ついで、釈尊以来、脈々と継承されてきたこと、「この仏道、かならず嗣法するとき、さだめて嗣書あり。もし嗣法なきは天然外道なり。」と、嗣法と嗣書の一如なることを明示されています。この真義に反して、近年では、実際に師より嗣書を授けられずに、ただ師の法語 (仏法の道理を説いた語) と頂相 (肖像画) だけを手に入れて嗣法の証とする弊風があることを批判されています。さらに中国での見聞をもとに、禅宗諸派の嗣書の書式について、その相違点などについて述べられるとともに、「白絹の表背せるにかく。表紙はあかき錦なり。軸は玉なり。長九寸ばかり、濶七尺余なり。」など、当時の嗣書の裂地、材質、大きさなどについても記されています。

最後に、師・如浄と交わされた嗣法についての問答を記し、「このとき道元はじめて仏祖の嗣法あることを稟受 (受ける) するのみにあらず、従来の旧窠 (誤てる考え) をも脱落するなり。」と、如浄の指導により嗣法の真義に得心された心境を述べて結んでいます。

末尾には、仁治二 (一二四一) 年三月二十七日、山城興聖寺にて草案を作成した旨の自著と、寛元元 (一二四三) 年九月二十四日、越前吉峰寺にて修訂した時の道元禅師の花押が記されています。

現在、曹洞宗門では、この『嗣書』の教えを受け、嗣書は師から授与される「室中三物」(嗣書・血脈・大事) の一つとして尊重され、嗣法の証として重要視されています。

(駒澤大学禅文化歴史博物館 塚田 博)

嗣書
 觀音尊利聖聖寶林寺
 佛佛のらうつと佛佛の嗣法三祖祖から
 衣祖祖の嗣法すた、この證契とて、
 單傳すた、この證契とて、
 佛佛のらうつと佛佛の嗣法三祖祖から
 衣祖祖の嗣法すた、この證契とて、
 單傳すた、この證契とて、
 佛佛のらうつと佛佛の嗣法三祖祖から
 衣祖祖の嗣法すた、この證契とて、
 單傳すた、この證契とて、

入宋傳法沙門道元記
 予、四十餘代をあらたむるに、
 佛佛のらうつと佛佛の嗣法三祖祖から
 衣祖祖の嗣法すた、この證契とて、
 單傳すた、この證契とて、
 佛佛のらうつと佛佛の嗣法三祖祖から
 衣祖祖の嗣法すた、この證契とて、
 單傳すた、この證契とて、
 佛佛のらうつと佛佛の嗣法三祖祖から
 衣祖祖の嗣法すた、この證契とて、
 單傳すた、この證契とて、

宣元元年九月二十四日掛錫於越州吉甯縣
 古峯古寺草庵

毎年、春と秋に公開を
 しています。
 日程等は禅文化歴史
 博物館HPをご覧下
 さい。

事務局からのお知らせ・お願い

●平成 21 年度維持会費未納の方へ

維持会費 5,000 円の振込用紙を紛失された方は、事務局までご連絡下さい。なお、賛助会員への変更を希望されている場合もお申し出下さい。

TEL 03-3418-9189 FAX 03-3418-9190

●新年賀詞交歓会のお知らせ

平成 22 年 1 月 9 日 (土) 午後 2 時からホテルニューオータニにおいて開催です。当日二次会(駒澤会新年会)も開催されますので、そちらにも是非御参加下さい。

●大学行事予定

1 2 月 2 5 日 (金) 後期授業最終日、事務取扱年内最終日

1 2 月 2 6 日 (土) ~ 1 月 5 日 (火) 冬季休業

1 月 9 日 (土) 新年賀詞交歓会

ホテルニューオータニ

2 月 4 日 (木) 全学部統一入試 (全国 6 都市)

2 月 5 日 (金) ~ 8 日 (月) 一般入試 (本校)

3 月 7 日 (日) 3 月一般入試

3 月 2 5 日 (木) 卒業式

4 月 2 日 (金) 入学式

●駒澤会行事予定

1 2 月 1 3 日 (日) ~ 1 4 日 (月)

駒澤会一泊忘年会 熱海「新かどや」

1 月 9 日 (土) 新年賀詞交歓会・駒澤会二次会

1 月 2 3 日 (土) 駒澤会役員会・部会

3 月 1 3 日 (土) 駒澤会役員会・部会

3 月中旬 卒業生父母へ「入会案内」発送

●箱根駅伝 御声援よろしくお願ひ致します!

好例の東京箱根間往復大学駅伝競走に本学陸上部が予選会 (10.17 開催) を一位で通過し、出場いたします。昨年の雪辱を晴らし、再び総合一位の座を取り戻してほしいと思います。

↓ 21.10.17 国営昭和記念公園で行われた予選会の様子



編集後記

越後の国、上杉藩の家老直江兼続の波乱の生涯と人物像が話題になっています。本学の文化講演会でも、NHKの大河ドラマ「天地人」原作者火坂雅志氏のお話は聴衆の感動を呼び好評でした。なぜ、今、戦国の武将兼続なのでしょう。

先般、お檀家さんとのバス旅行で、私の郷里米沢に行ってきました。ケネディやクリントン元アメリカ大統領が、日本人で最も尊敬する人物として挙げた人として、藩財政の改革者、米沢藩第 9 代藩主上杉鷹山はあまりにも有名ですが、鷹山公はわたしの母校米沢興譲館高校の創立者としても知られています。しかしながら、その沿革をたどれば、兼続が会津から米沢に移封 (1617) され、翌年の元和 4 年には禅林寺に学問所禅林文庫を創設して、武士の子弟の教育に着手した時に始まるのです。そして、百数十年後 (安永 5 年—1776 年) 鷹山公の命により、彼の師細井平州によって「興譲館」と命名され、わが国の先駆をなす藩校として、幾多の俊英を輩出し、藩政改革のパイオニアとして財政危機を克服したのです。このように、“藩政改革はまず人材養成 (教育) から” という信念と興譲館創立の原点は兼続に遡るのであり、‘米沢における学術文化は兼続に発す’ といわれる所以です。

思うに、駒澤会の奨学金事業の使命もまた、兼続の‘愛’ ‘と人づくりの理想に通じ、駒澤大学のさらなる発展を約束するものだと言っても過言ではありません。

広報部 菊地英昭

駒澤会だより 第 13 号

発行日:平成 21 年 12 月 15 日

発行者:駒澤大学駒澤会 広報部

154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1

TEL03-3418-9189、FAX 9190

駒澤会ホームページ<駒澤大学HPより>

<http://www.komazawa-u.ac.jp> ~

在校生父母の方 ~ 駒澤会クリック